

ビルマ民主化闘争略年表

☆印：日本関連の動き

19世紀初め	英国との間で紛争始まる
1824年	第一次英緬戦争でヤカイン（アラカン）とテナセリムを失う
1852年	第二次英緬戦争でイラワジデルタ地方を失う
1857年	マンダレーに遷都
1885年	第三次英緬戦争で、最後の王ティボーは印へ連行され、英の支配始まる
1986年	英、インドと併合し、植民地支配始める
1920年代	民族主義運動台頭
1937年	インドから分離される
1941年	☆日本軍の侵略開始。アウンサン、ネウインらの独立義勇軍結成
1942年	☆日本軍、義勇軍の解体命令。泰緬鉄道の建設強行
1944年	アラカン地方で抗日戦準備始まる
1945年	反日蜂起
1947年	アウンサン暗殺される（7月19日）
1948年	ビルマ連邦共和国として独立。ウーヌー宰相と（1月4日）
1949年	カレン族抵抗始まる
1956年	第二回総選挙で野党進出。政界抗争始まる
1959年	カレン族、ビルマ共産党と連体し、内戦拡大
1962年	ネ・ウィン將軍クーデター。ウーヌー失脚。社会主義化始まる
1972年	新憲法採択。ネウイン大統領のもとビルマ連邦社会主義共和国に
1981年	大統領職をサンユに。議長はネウインのまま
1983年	アウンサン廟を参る韓国要人に北朝鮮、爆弾テロ（10月9日）
1987年	9月、供出制度を改め、農産物十一品目の自由売買許可。 高額紙幣廃止に学生抗議デモ。後発開発途上国と認定される。
1988年3月	7日、アウンジー元准将、経済改革の公開書簡をネウインへ 12日、学生、喫茶店での口論から反政府デモへ 18日、「流血の金曜日」
1988年4月	2日、スーチー、母の看病で帰国。 反政府デモ再発。地方へも波及
1988年6月	21日、戒厳令発令
1988年7月	26日、ネウイン党総裁とサンユ副総裁兼大統領が辞任。セイルインに
1988年8月	8日、全国でゼネスト、デモに突入。ラングーン市庁舎前で無差別発砲。 12日、セイルン辞任、マウンマウン党総裁兼大統領に
1988年9月	5日、スーチーとティンウ、暫定政権＋民主選挙かゼネスト続行で迫る ☆13日、日本政府、援助を凍結。 18日、軍クーデター。ソウマウン大將が国家法秩序回復委員会議長に。 23日、米国、援助停止。 27日、スーチーら、国民民主連名を結成。 ☆27日、大鷹弘大使「流血を避け、民主的政治解決を」ビルマ外務省へ
1988年10月	30日、スーチー、地方遊説を開始
1988年12月	3日、アウンジー脱退。 10日、ティンウ新議長に。 27日、スーチーの母、キンチー死去
1989年2月	☆日本政府、ソウマウン政権を承認、 17日、継続案件に限り援助再開。
1989年3月	社会主義経済制度放棄を声明
1989年4月	19日、スーチー、日本の援助再開批判
1989年6月	18日、「ミヤンマー」に国名変更
1989年7月	20日、スーチー女史を自宅軟禁
1989年11月	7日、総選挙を5月27日に実施すると発表
1990年1月	選管、スーチーの立候補を認めないと決定
1990年5月	総選挙実施。野党、国民民主連名が圧勝（392／485議席）
1990年8月	マンダレーで僧侶の反政府デモ。軍の宗教行事ボイコット。 ☆30日、渡辺ソウマウン会談。「スー解放は英帰国か文学者になるなら」 ソウマウン中国訪問
1990年9月	チーマウン氏逮捕。NLD幹部、僧侶の逮捕あいつぐ
1990年10月	マンダレーで一三三の寺院を急襲 14日、スーチーさんにノーベル平和賞
1990年11月	☆緒方貞子上智大教授を国連人権委員会が派遣 ☆横田洋三国連人権委員会特使、スーチーと会えず、ハンストと噂
1990年12月	マンナブローで暫定政府樹立
1992年4月	ソウマウン議長辞任、タンシュエ就任
1992年5月	マイケル・エアリス氏、妻スーチーさんと面会（2年半ぶり）
1992年9月	夜間外出禁止令解除
1993年1月	新憲法起草のため国民会議開催（2日間）
1993年8月	スーチー、外貨口座開設とノーベル賞金使用認められる
1993年11月	3日、カチン独立機構、停戦協定結ぶ。 18日、チョーバ観光相、4週間ビザを発行 観光客誘致強化を発表
1993年12月	☆日本、ユネスコ協同調査団がバガン遺跡保存へ
1994年2月	14日、リチャードソン米下院議員スーチーに面会、スーチー「国外退去応じぬ」と
1994年5月	IEWタ師、キンニョンと会談
1994年6月	☆15日、経団連ミッション訪緬、直接投資や援助の可能性会談
1994年7月	議長国ゲストとしてアセアン初参加
1994年8月	IEWタ師、スーチーと面会。タンシュエ、彼女の対話要求に合意
1994年9月	20日、タンシュエ議長とキンニョン第一書記、スーチーさんと初対話
1994年11月	米國務次官補代理と軍事政権幹部が八八年以来、初の直接対話
1994年12月	☆17日頃、外務省経済協力局、三井物産、援助再開に向けヤンゴン入り。 26日、李鵬首相公式訪問、経済・軍事関係強化。四千万ドル融資決定。 26日、政治犯四七人釈放。タンシュエになって計2109人の釈放
1995年1月	☆10日までに、日本政府、政策転換。空港建設再開を決定。 ☆25日、日本通産省七年ぶり、直接投資の貿易保険引受再開。 27日、マンナブロー陥落。
1995年2月	タイ、ヤナダガス田の30年契約。 14日、ウーヌー元首相死去 20日、一般墓地埋葬に学生反発
1995年3月	☆7日、日本政府、十億円の食料増産無償援助を決定。政府開発援助の実質再開。 15日、ティンウ氏、チーマウン氏ら31人釈放（チ氏は六月短期再拘束）。 ☆24日、丸紅、川重、発電設備を受注。伊藤忠、三菱商事も
1995年4月	☆7日、福田博外務審議官、スーチーの早期釈放求める。 12日、インド、中国警戒し国境貿易再会。 クンサーへ本格攻勢開始。補給先の米も内諾
1995年5月	8日、カレン族襲撃でタイ軍と戦火を交わす スーチーさんにネール賞
1995年6月	5日、タンシュエ、アセアン訪問。「今年7月のスーチー解放はない」とキンニョン、米新聞記者に。 タイ商品排斥運動開始。 ☆16日、日本政府四十億円の九四年下半期の債務帳消しに。 16日、内閣改造、入管人口相に（カレン制圧の）マウンフラ中將に。 27日、モン族と停戦（16反政府勢力中15番目の懐柔）。
1995年7月	6日、タンシュエ遅浩田中国国防相と会談、内政干渉、覇権反対で合意。 7日、キンニョン「権力、永久維持せず。一人の人権より全国民の…」と。 10日、スーチーさん軟禁解除。 ☆10日、日本政府、円借款再開の方針を固める。 ☆14日、スーチー「民主化進展見極めて」と日本の援助再開時期尚早と。 16日、スーチー「無憲法状態で、アセアン加盟は時期尚早だ」。 17日、スーチー、国民民主連盟の書記長に復帰。 ☆20日、スーチー、小野正昭アジア局参事官と援助について会談。 ☆31日、河野洋平外相、オンジョーと会談 31日、ミヤンマーのアセアンオブザーバー入り見送り …………… ……
1996年10月	「ミヤンマー観光年」開始。誘致目標50万人